

躍

いきいき狭山人
びと

天体観測のおもしろさ、日食の感動を 未来ある子ども達に伝え、その魅力を 多くの方に知ってもらいたい

2008年8月1日、中国甘肅省酒泉市での皆既日食の様子

皆さんは、今年の7月22日にあった出来事を覚えていますか。日本国内では、46年ぶりの天体ショー・皆既日食を観測することができました。日本国内で過去直近に皆既日食が観測されたのは、1963年の7月までさかのぼらなければならぬのです

から、その感動はひとしおでした。当日は、日本人だけでなく多くの外国の皆さんも観測ポイントに集結し、大変な賑わいとなったことは記憶に新しいところですよ。

さて、そんな日食を海外にも出かけ、追い続けているのが、今回ご紹介する大室恵昭さんです。大室さんは、もともと天文が好きで、中央児童館ができたころから、プラネタリウムの解説などのボランティアをしてきました。特に、日食に興味を持つようになったのは、ボランティアをする中で、子ども達に日食の説明をする機会があるのに、自分で体感したことがなかったため、1983年にインドネシアへ日食を観測に行ったのがきっかけでした。そのときの感動は今でも忘れることができませぬ。声を出すことすらできないほどでした。

15回、海外で日食を体感してきました。

「天体の魅力は、夜の星そのものは純粹に美しい。日食も神秘的で美しい。しかし、日食は、そこにいる一部の人のみで見られない現象です。写真などの映像では、ただきれいという言葉だけでは、真の美しさを万人に伝える言葉が見つかりません。だから一層日食は美しいのです」と大室さんは語ります。

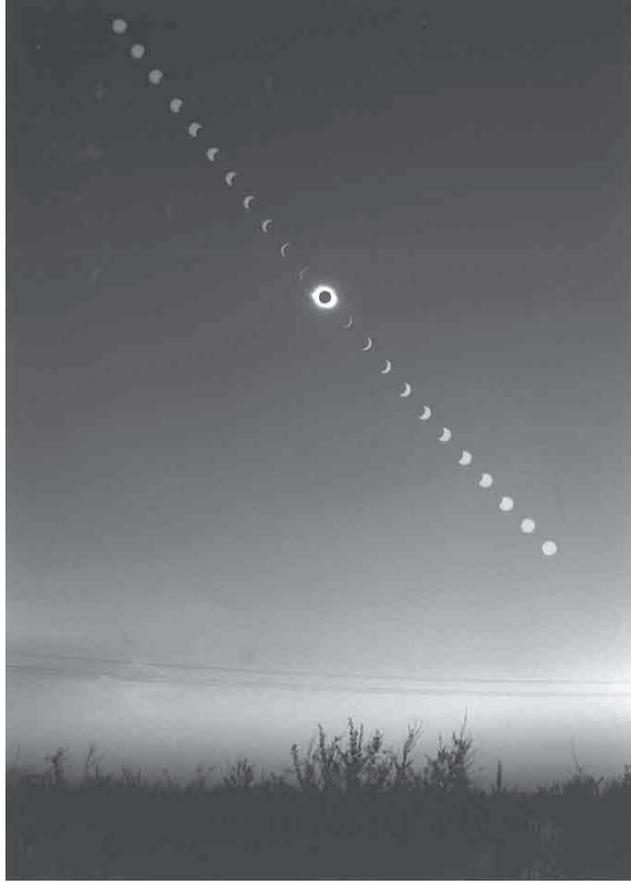
今回の上海での日食は、曇天だったため、まさに昼から一転して暗夜となり、コロナ（太陽の周りに見える散乱光）もプロミネンス（コロナの中に突き出したもので、日本語では紅炎）も、そしてダイヤモンドリング（太陽がすべて隠れた直後に太陽の光が1か所だけ漏れ出て輝く瞬間）も見ることができず、その意味では、「目で見る日食」ではなく、「体で感じた日食」という6分間でした。



愛用のカメラとともに
アマチュア天文家

しげあき
大室恵昭さん(富士見在住)

大室さんはこれまで世界各国を訪れてきましたが、非日常的な空間を味わえること、ガイドブックにない所での地元の人とのふれあいとミステリアスな旅、さらに、地球上には、不毛の土地が多いという経験や発見もしました。「今後の抱負としては、ぜひ妻にも日食を見せてあげたいと思っています。また、音楽や絵を描く芸術家の方にもぜひ体感してもらい、それをどのように感じ、表現してくれるのが興味があります」大室さんは、これからも一人の天体マニアとして日食を追いかけます。



オピニオン

狭山市の人口減少の原因と対策は



毎月「広報さやま」を楽しみに読んでいます。広報さやまは、いつも身近な情報を取り上げて知らせてもらえるので、大変役に立っています。

最近、気になることは、狭山市の世帯数は増えているのに、人口が減少していることです。以前は16万人を超えていましたが、現在は15万人台です。

ちなみに、お隣の所沢市の人口を調べてみたところ、毎年数百人ずつ増えていることが分かりました。狭山市は、所沢市から電車で10分ほどで、緑も多く、自然がたくさん残っていますし、決して住環境は悪くないと思います。

私が狭山に住み始めた昭和50年ごろは、家が点在する程度でしたが、その後増え続け、私の自治会でも、当時より400世帯ほど増えました。それでも、狭山市全体で人口が減っていることについては、さまざまな原因があると思います。やはりその地域に見合った適正な人口の規模というものがあるのではないかと思います。ぜひ、市としての考えを教えてください。

市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。

人口の減少につきましては、全国的な問題ですが、狭山市の総人口も平成7年の163,365人をピークに、その後は減少が続いており、逆に世帯数については毎年増加しています。人口減少の要因としては、少子化や市外転出など、さまざま考えられますが、市では、この人口減少に歯止めをかけるため、子育て環境の整備や都市機能の充実などを図り、より住みやすいまちの実現などに取り組んでいきたいと考えています。 担当 政策企画課

皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代) ✉koho@city.sayama.saitama.jp

問合せ中野美枝さんへ
2952 7852

私たちの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代) ✉koho@city.sayama.saitama.jp

私の宝物 ...

母が残してくれた幼き日の記憶

私の宝物は、昭和18年、当時の国民学校の3年生のときに使っていた綴り方のノートです。永く忘れていたこのノートは、母が大切に保管してくれていたことで、現在も私の手元に残っています。色あせた表紙、朱書きで書かれている先生の言葉や「優」「良上」のスタンプ、裏表紙の時間割表、どこを見ても皆懐かしく、当時の学校生活や友達と遊んだことを思い出させてくれます。気持ちが落ち込んだときやつらいときでも、このノートを眺めることで、当時を思い出し励ましてくれる「心のささえ」のような存在です。



伊藤ヒロ子さん (水野在住)



眺めるたびに、幼き日に戻れる気がします

眺めるたびに、幼き日に戻れる気がします

今回は下奥富にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.337



普段の活動のほか、定期的な懇親会も行う楽しい仲間です

し
ら
ゆ
り
会

私たちは、平成元年にできた手編みのサークルで、堀兼公民館で20年以上にわたり活動しています。現在は、毎月2回、10名の会員で、楽しく手芸に取り組んでいます。初心者も経験者も、人それぞれのレベルに合わせて講師の指導が受けられるので、いつでも、どなたでも参加することが出来る親しみやすいサークルです。手編みの魅力は、一本一本の糸を少しずつ編み進めて、世界に一つしかないオリジナルの作品ができることです。講師から、今はやりのデザインや色使いなども教えていただき、でき上がったセーターに袖を通すと、身も心も若々しくなります。また、古い物の糸を解いて、全く新しく作り直すリサイクルができるのも、良いことだと思います。今は会員一同、秋の文化祭に向けた作品に取り組んでいて、お互いに情報交換をしながら楽しく活動していると、脳の活性化にも役立ちます。皆さんも私たちの仲間に入りませんか。